

まちの話題

稗の底村の自然を守りたい ▶

3月4日に本郷小6年2組の皆さんが来庁し、町長、教育長、議会議長に稗の底のごみの不法投棄の実態を報告し、ごみ箱や看板の設置、ごみを回収するボランティアチームの結成などを提言しました。

町長は「自分で持っていく物は、自分で持ち帰ることが基本。ごみ箱を設置すればごみを置いて行く人が増え、環境が悪くなる。町はごみ箱を設置しない運動を推進している。看板は、材料を出すので皆でデザインから作成、設置する場所の許可まで自分たちでやってほしい」と子供たちの自主性と行動力を尊重しました。3月14日には本郷小6年2組の皆さんと町職員で稗の底のごみ拾いを行いました。空き缶、オートバイ部品、一斗缶など不燃ごみを軽トラ1台分回収しました。子供たちのこうした取り組みに恥じないようマナーを守れる大人でありたいと痛感しました。



卒業式

3月17日、町内の2中学校で卒業式が行なわれ、高原中で130名、南中で45名が卒業しました。高原中の早川校長は卒業生一人ひとりに卒業証書を手渡し、「育った。3年前元気に入学してきたみんなが、元気にたくましくスマトラ沖地震では多くのみんなが救いの手を差し伸べ、ひとり一人の力が社会を動かす力となった。いろんな経験がこれからの人生の大きな糧となる。」とはなむけの言葉を贈りました。卒業生を代表して須山修平君が3年間、切磋琢磨してきた友と自分を支えてくれた家族に感謝している。高原中の卒業生であることを誇りに歩んでいきますと答辞を述べました。

昨年秋のこと、東都高原富士見会から河口湖紅葉1泊旅行のご案内をいただきました。先祖の墓参りには行っていたものの、故郷を出てから47年、立沢とも疎遠になり、親しい人も居ないので一度は欠席することに致しましたが、家内の勧めもあり、初めて出席する事に致しました。

当日新宿に集合し、ホテルから迎えに来たバスに乗り、河口湖に向かいました。知らない方ばかりでしたが、皆さん同年代のようで何人かは本郷会でお会いした方もおり、同郷人の雰囲気を感じ得ました。皆さん関東方面に就職の為、故郷を出て50、60年それぞれ仕事は違っても努力し苦難を乗り越え一段落、そして今は幸せにお過ごしのように拝察いたしました。この半生を振り返り見るような年齢になったかと思いつつ、忘れていた子供の頃を思い出すきっかけになりました。父は、私が5歳のとき、戦死致しました。母は、男兄弟3人の子供を育てるのに苦労したと思います。私も学校を休んで道作りの人足に行った事、冬には雪が降ると早朝未だ薄暗いうちから学校道の雪かきなど、父の代わりをさせられたことなど、故郷を偲んだ1泊2日の旅行でした。



小池 清一
埼玉県所沢市
(立沢出身)

ふるさとのみなさんへ
東都高原富士見会だより